福井県
坂井市春江町の石仏

資料作成：滝本やすし（石川県金沢市）

春江町寄安住吉神社旧本殿の観音と毘沙門天

春江町

01 寄安　黄楊の堂／親鸞、山王神社石祠[山王権現]
02 寄安　住吉神社／旧本殿石祠[聖観音と毘沙門天]
03 正蓮花　諏訪神社／旧本殿石祠[諏訪大明神]
04 高江　住吉神社／胎蔵界大日種子板碑、双体神像
05 千歩寺　八幡神社／山王神社石祠[山王権現]
06 西長田　長田神社／春日神社石祠[文殊三尊]、貴船神社石幢[高龍神と闇龍神]、双体神像、板碑
07 西長田　薬師堂／薬師如来、地蔵、「八幡大菩薩」、廻國塔
08 藤鷲塚　八幡神社境内社白山神社／旧本殿石祠[毘沙門天]
09 井向　比咩神社境内社白山神社／阿弥陀三尊種子板碑
10 中庄　神明神社／多層塔

01 寄安　黄楊の堂／親鸞、山王神社石祠[山王権現]

親鸞聖人の旧跡で、入り口と堂前に「従是親鸞聖人御旧蹟道」と刻まれた石柱が建てられている。黄楊の木の手前に、小さな石堂が建てられている。黄楊の堂の左奥にも石堂が建てられており、親鸞の石像が納められている。案内板に次のように記されている。

黄楊の堂

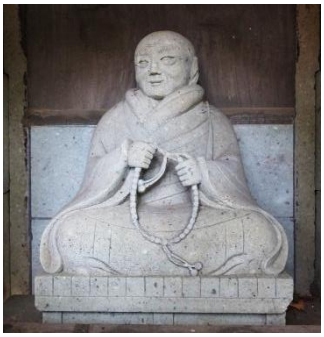
黄楊の木由来

承元元年(1207)専修念仏を唱導していた法然上人と、門弟数名が流罪となり、高弟の親鸞は越後に配流されることになった時に、三十五才の親鸞は京都から疋田、武生を圣て寄安郷の後家長者宅に着いた。

時期は旧暦四月中旬で、たまたま高水のため三日間逗留した。此の時、お菓子にそえて出した楊枝(当時は枝を折ったもの)を親鸞が庭にさし「これから後佛教が繁昌するならば必ずこれから芽が出て栄えるであろう。」と祈念され、そして旅立たれた。果してその翌日、忽ち根を生じ芽をふき出して来たのである。

洵に聖人のこの神秘的不可思議な言行には、只々胸が打たれるのである。

じ来、越前は佛教王国として栄え、「黄楊の木」も成長して今日に及んでいる。



親鸞聖人

親鸞の石像が納められた石堂の左手に、日月の窓が開けられた石祠が建てられている。この石祠は山王神社で、左下に２体の猿像が置かれている。石祠の奥壁内面には３体の像が浮彫りされている。中央の立像は大山咋神、右の座像は大物主神、左は桃を持つ猿のようである。

山王神社の山王権現

02 寄安　住吉神社／旧本殿石祠[聖観音と毘沙門天]

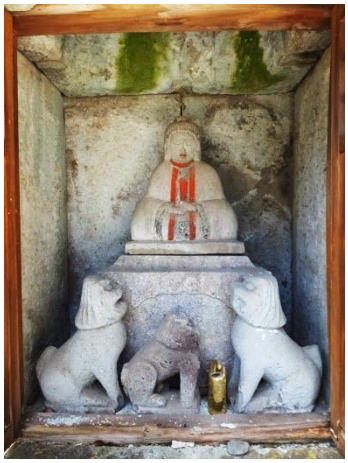
住吉神社の祭神は征夷代将軍の坂上田村磨で、旧社格は指定村社。境内社は、大山咋命を祭神とする日吉神社および大日霎貴尊を祭神とする神明神社。

本殿の右手に、正面に日月の窓が開けられた石祠が建てられている。奥壁内面には、聖観音と毘沙門天の立像が並んで浮彫りされている。本殿正面の石鳥

旧本殿の観音と毘沙門天

居の額束に「住吉大明神／毘沙門天王」と刻まれており、聖観音は住吉大明神の本地仏であることから、この石祠は住吉神社の旧本殿と考えられる。

03 正蓮花　諏訪神社／旧本殿石祠［諏訪大明神］


旧本殿の諏訪大明神と狛犬

諏訪神社の祭神は武御名方命、旧社格は指定村社。境内社の記録がないが、境内には３基の石祠が建てられている。

本殿の左手に、木製の扉がはめ込まれた石祠が建てられている。石祠の左柱前面に「干時慶長十余年(1609)己酉八月吉日願主敬白」と刻まれている。右柱前面に願主名が刻まれているが、磨滅が激しく判読できない。内部には、丸彫りの神像と狛犬３体が納められている。この石祠は諏訪神社の旧本殿と考えられ、神像は祭神の武御名方命であろう。

さらに左手に、日月の窓が開けられた石祠が２基建てられている。右の石祠の奥壁内面には神像が浮彫りされている。左の石祠には、火焔光背型の不動明王が納められている。

04 高江　住吉神社／胎蔵界大日種子板碑、双体神像

住吉神社の祭神は中筒男命、旧社格は村社。

本殿の左手の堂内に、２基の大きな板碑、石祠、双体神像などの石造物が納められている。案内板には次のように記されている。

胎蔵界大日種子板碑２基

高江住吉神社板碑

坂井市指定文化財　歴史資料

平成３年２月２７日指定

中世仏教で使われた供養塔２基で、両者ともに笏谷石(火山礫凝灰岩)を使っています。

この板碑は高江区の八幡神社にあったものを、大正十二年(1923)の土地改良の際に移設しました。

左側の１号碑は総高約１．７３メートルあり、「正慶元年壬申(1332)十月」と記年銘があります。２号碑は、総高約１．７メートルあり、「応永己卯(1399)九月十六日」と記年銘があります。　　坂井市教育委員会文化課

双体神像

05 千歩寺　八幡神社／山王神社石祠［山王権現］

八幡神社の祭神は応神天皇、旧社格は村社。大己貴命を祭神とする山王神社を合祀とあるが、本殿の右手に山王神社の石祠が建てられている。

山王神社石祠の正面には日月の窓が開けられ、向かい合って座る２匹の猿が浮彫りされている。右柱の右面に「享保十一(1726)丙午八月日」と刻まれている。内部には丸彫りの神像と浮彫りの神像が納められている。これら２体の神像は、大山咋命と大己貴命であろうか。

山王神社石祠

06 西長田　長田神社／春日神社石祠［文殊三尊］、貴船神社石幢［高靇神と闇靇神］、双体神像、板碑

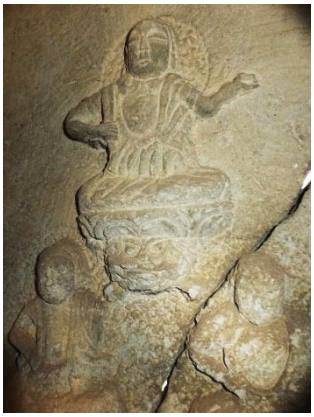
長田神社の祭神は継体天皇、旧社格は指定村社。境内社は、貴船神社、白山神社、春日神社、辯財天社。

拝殿手前左手の池の中の島に建てられているのは辯財天社で、８臂弁財天立像が彫られた石祠が納められている。本殿の右手には５基の石造物が整然と並べられている。左から石祠２基、石幢１基、双体神像、板碑である。

いちばん左の石祠は前面に日月の窓が開けられており、内部に丸彫りの衣冠束帯男性神像が納められている。右隣の石祠が春日神社、石幢が貴船神社と考えられるので、この石祠は白山神社であろう。

右の石祠は前面に日月の窓が開けられており、奥壁内面に３体の像が浮彫りされている。中尊は右手に剣を、左手に宝珠を持ち、獅子上の蓮に座っている。２体の眷属の像容が不鮮明であるが、右の座像が善財童子、左の座像が優填王のようであり、童子形の渡海文殊三尊である。奈良市の春日大社摂社の若宮神社の祭神は天押雲根命で、本地仏は文殊菩薩である。この石祠は、春日大社の若宮を招請したのであろう。

５基並んでいる石造物の中央は４面の石幢で、正面に女性神像が２体、左右の側面に男性神像が各１体浮彫りされている。この石幢は貴船神社と考えられ、正面の２体の女性神像は高靇神と闇靇神と思われる。左側面に「應永八月上旬日」と刻まれている。

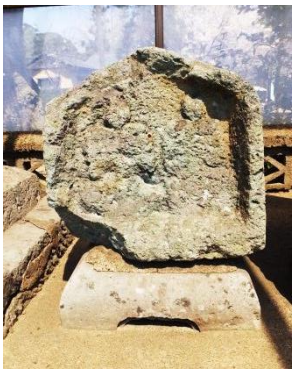


春日神社の文殊三尊

貴船神社石幢

右から２番目は浮彫りの双体神像で、越前地方では同様の石造物が１０基ほど確認されている。

いちばん右は五輪塔が線刻された板碑で、地輪には蓮弁が装飾された胎蔵界大日如来の種子「ア」が刻まれている。



双体神像

板碑

07 西長田　薬師堂／薬師如来、地蔵、「八幡大菩薩」、廻國塔

長田神社から２００メートルほど東の路傍に、石造薬師如来が納められた堂が建てられている。どっしりとした大きな浮彫り座像である。体の悪い所と同じ場所を撫でて病気やケガの治癒を祈願したのであろう、全体に磨滅している。

薬師堂の左手には、地蔵や角型石柱など１０基ほどの石造物が整然と並べられている。

３基の角型石柱のうちの右の石柱は、正面中央上部に「八幡大菩薩」、その右に「……神」、左には「来宮権現」と刻まれている。その下に「天文廿年(1551)辛亥二月廿三日」と刻まれており、さらに下には願主名が刻まれているが判読困難である。左側面に「現世安穏為■主菩提」と刻まれている。左の同型の石塔にも同様の銘文が刻まれているが、神号が刻まれていると思われる部分は故意に削り落とされているようである。

３基の角型石柱のうちの中央の石柱は、正面中央に「キリーク　奉納大乗妙典日本廻國」と刻まれ、その左右上部に「天下大平」「日月清明」、左右下部には「西長田村」「願主■七」と刻まれている。左側面に「安永四年(1775)未七月吉日」と刻まれている。

薬師堂とその左に並ぶ石造物

08 藤鷲塚　八幡神社境内社白山神社／旧本殿石祠［毘沙門天］

八幡神社の祭神は誉田別尊で、旧社格は村社。境内社は白山神社。白山神社は八幡神社の境内社とされているが、少し離れた場所に建てられている。県指定天然記念物の藤の木の奥に本殿が建てられている。鳥居の扁額は「白山権現」である。本殿の右手に旧本殿の石祠が建てられている。正面に角型の窓が二つ開けられており、その脇に「白山権現／弘治四年(1558)六月」と刻まれている。内部には毘沙門天立像が浮彫りされた石板が祀られている。弘治４年は２月に永禄に改元されていることと、毘沙門天社が明治初頭の神仏分離の際に白山神社に改称されたと考えられることから、石祠に刻まれた銘文は後刻と思われる。

旧本殿石祠の毘沙門天

09 井向　比咩神社境内社白山神社／阿弥陀三尊種子板碑

比咩神社の祭神は大市己貴命、旧社格は村社。境内社は金毘羅神社と白山神社。白山神社は比咩神社の境内社とされているが、少し離れた場所に建てられている。阿弥陀三尊の種子を刻んだ板碑が納められており、文永１１年(1274)の銘が確認されている。

10 中庄　神明神社／多層塔

神明神社の祭神は大日霎貴尊と譽田別尊、旧社格は指定村社。境内に多層塔の残欠がみられる。礎石は神社の敷石として使用されていた。塔身は神社のすぐ南を流れる磯部川の工事の際に出土した。笠の部分はそれ以前に磯部川から発見されたものである。その様式から、鎌倉時代に作られた十三重塔の残欠と考えられている。

多層塔の残欠